



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112

感謝

46回生 柴田 寛之

こんにちは。46回生の柴田寛之です。先日岩井先生から依頼を受け、OB会報誌を書かせていただくこととなりました。私は本年から鳥取大学医学部医学科に入学し、またサッカー部にも所属し充実した日々を送っています。

私は大学に入学するまでに三浪しました。この浪人中の三年間は本当に辛くしんどい毎日でしたが、今となつてはこの期間の間に勉強以外の面で本当に多くのことを学べたと感じています。私がこの浪人中に一番感じたことは、自分がいかにいまままで周囲の人たちに支えられていたのかということでした。この三年間本当に家族には感謝してもしきれないほど助けてもらいましたし、宮本先生、岩井先生、黒瀬先生をはじめとした城北の先生方、友人達にも本当に色々な面でお世話になりました。自分が大学に合格することが出来たのは、自分の努力の結果というもの以上にこういった周囲の方々のお陰だと感じています。これまで支え、助けて下さった皆さんに応援してよかつたなと思つてもらえるよう、立派な医師になることを目指して頑張つていきたいと思つています。

他にこの浪人生活で学んだことは、自分の目標を決してぶれることなく持ち続け、こつこつとひたむきに今の自分が出来ることをしつかりやれば、向き不向きというものはあるので努力が必ず実るわけではないけれど、それでも自分がやってきたことに對するそれなりの結果は出てくるんだなということ。終わつてみて考えると、浪人生活では良くも悪くも普通では体験できない経験をさせてもらえたように思つています。この経験を無駄にしないためにも、これからも常に自分の中で目標を明確に持ち、ひたむきに取り組んでいきたいと思つています。



高校から大学。そしてまたその次へ。

46回生 谷川 正高

こんにちは！46回生の谷川正高です。この度、岩井先生からOB会報誌を執筆させていただく機会をいただき、大変光栄に思つています。

OB会報誌ということ、僕自身の紹介と現状報告を少々。僕は2011年に同志社大学に入学し、今年で4年生になりました。サッカーはサークル活動として続けています。中学、高校と僕のポジションはGKでした。大学ではそのイメージを改め、フィールドプレイヤーとしてのデビューを目指していたのですが、入部したサークルのレベルが高く、今も尚GKとして頑張つていきます(笑)

僕の通う大学では、サッカーサークルによる、体育会とはまた異なつたリーグ戦が年間を通して行われており、大学に入ってからかなり高いモチベーションでサッカーをすることができています。そして、更に嬉しいことに、そのサークルには城北サッカー部の後輩が3年続けて入部してきています。城北の「縦」の繋がりを大学でも感じることができ、中学、高校と過ごしたサッカー部での生活が、現在でも自分の中で大きな存在であると感じています。

さて、前述の通り同志社大学にはサッカーサークルによるリーグ戦が存在します。このリーグは学生のみで運営していくもので、審判やHPでの広報活動、地域企業への協賛依頼など全てにおいて学生によって行われています。僕はその運営委員の代表を1年間務めたのですが、この経験は僕に城北で学んだことを思い出させてくれるものでした。城北では本当に多くのことを学びましたが、今改めて自分の中で大事にしていることは「面倒くさいことでも自ら率先して引き受ける」ということです。リーグの運営とは本当に面倒くさいことばかりでした。しかし、その面倒なことに對してどれだけ自分から本気で近づいていくか、これが本当に大事でした。共に運営していく仲間からの信頼はもちろん、リーグに参加する10チーム以上のサークルからも信頼を勝ち取っていくには、まず自分が目の前のことに對して本気で取り組んでいく姿勢が必要だつたと感じる事ができています。自分が動くことによつて、周囲の反応や動きが変わつていくことに気づくことができました。

僕がこのOB会報誌で伝えたいことは、自分の周りの環境を決めるのも、物事に対する自分の姿勢であり、アプローチの仕方なのだということ。うまくいかない時こそ、自分の姿勢を改めてチェックし、周囲の環境を自分の手で変えていく、今後何かに躓いた時にはこのことを思い出したいと思います。大学生活も残り一年、来年からは社会人と

して新たなスタートを切ります。新たなステージに進む前に、城北で学んだこと、人として大事なことを思い出出すことができると本当に良かったと、今の底から感じていきます。ここまで読んでくださった皆様、あらゆる場所で活躍されていることと思います。学生として頑張っている人、社会人として必死に働いている人、結婚して新たな家族を持った人、みんな新しいステージを目指して、今を必死に頑張つていきましょう!!



最上段が教えてくれたこと

48回生 松下 太

はじめまして、48回生の松下太です。今回OBとして会報誌に文章を書くことに喜びを感じるとともに、このような機会をあたえてくれた先生方に感謝しています。

今回は最上段で学んだことを二つ、そして大学に入学して感じたことを書きたいと思つています。

まず最上段で学んだことについて書きます。一つ目は仲間の大切さです。ぼくは中学の時はFWをやつていましたが、高校にあがつて自分のFWでは通用しないといわれ、サイドバックをやることになりました。正直自分のやりたくないポジションをやるのはつらかったです。みんなが好きなポジションをできるわけではないのはもちろん頭ではわかっていましたが、それでも慣れないポジションでうまくいかなかったり、チームの足を引っ張つてしまつたりしたときに、やめようと思つたことはいっぱいありました。それでも続けてこられたのは仲間がいたからだと思つています。サイドバックをやめたいという話も嫌な顔せず聞いてくれ、先生にぼくをFWにしてくれようと言に行つたりもしてくれました。結果、高3のときはボランチをやらせてもらいました。もしサイドバックをやつていたら楽しくない高校サッカーになつてしまつていたかはわかりませんが、確実にいえることはボランチでの高校サッカーはとびきりに楽しかつたとい



